

## ワークショップ型研修の実践から ～主体的に参加し実りある研修会に～

八雲町立野田生中学校  
佐々木 貴史

### 1. はじめに

渡島支部第4ブロックは、森町、八雲町、長万部町の3町で構成されています。平成29年度までは八雲町と長万部町の2町で構成していましたが、渡島支部内のブロック再編により平成30年度から森町が新たに加わり活動を始めました。ブロック再編を行うこととなった要因の一つには、この数年間、第4ブロックが少人数で研究活動を進めなければならない状況が続いていたことがあります。児童生徒数の減少に伴う事務職員配置の削減や、学校の統廃合による事務職員数の減少などに因ります。実際のブロック研究について、平成27年度は11名で進めていましたが、平成28年度は8名（新採用1名、経験年数10年未満6名、20年以上1名）、平成29年度は6名（新採用2名、経験年数10年未満3名、20年以上1名）と年々人数が減少するとともに、構成メンバーの経験年数も短くなってきている傾向があります。

経験年数の短い事務職員が主となって研究を進めるにあたり、渡島支部の研究テーマである「創造的な学校事務の推進をめざして」を基本として、組織的な研究が途絶えることがないようにということを第一に考えました。そして、全員が「参加してよかった」と思えるような研修会とすることを目指しました。この目標を達成するために取り入れた手法が「ワークショップ型研修」でした。平成28年度および平成29年度の2年間行ったワークショップ型研修の実践について、報告いたします。

### 2. ワークショップ型研修の導入の経緯

ワークショップとは、『広辞苑』（新村出編（1998）第五版、岩波書店）によると「①仕事場。作業場。②所定の課題についての事前研究の結果を持ち寄って、討議を重ねる形の研修会。教員・社会教育指導者の研修や企

業教育に採用されることが多い。」と定義されています。第4ブロックの中にも研究授業等の際にワークショップ型研修を行っている学校が複数あり、実際に参加したことがある事務職員から第4ブロックの研修会にも採用してはどうかと提案がありました。具体的には、研修会で使用する資料は事前に配布し、各自資料を読み込み、気づいたことや感想等を付箋に記入します。準備した付箋を当日持参し、持ち寄った付箋を元に交流するというものです。

第4ブロックは平成27年度にそれまでの研究がまとめの年を迎え、平成28年度から新しいテーマを設定して研究を行うことになりました。研修会の進め方を改善するよい機会と考え、ワークショップ型研修を導入することにしました。導入にあたっての主な理由は、以下の3点です。

（1）研修会資料の事前配布により、当日に資料を読み込む時間が不要となり、話し合いにより多くの時間を費やすことができるため。（時間の有効活用）

（2）資料について感想や意見を付箋に記入することで、事前に各自の考えを整理して研修会に臨むことができ、話し合いへの主体的な参加を促すことができるため。（論議の活性化）

（3）やむを得ず研修会を欠席する場合でも、付箋を提出することにより意見を伝えることができるため。また、協議会未加入の事務職員にも、付箋に意見を書くことであれば協力を依頼できるのではないかと考えたため。（研修会参加者の確保）

これまでの第4ブロック研修会は資料を研修会当日に配布することが多かったため、資料の説明に多くの時間を費やしてしまい、論議の時間を十分に確保できないこともありました。また、期限付の事務職員や経験年数の短い事務職員、異動等により第4ブロックに入って間もない事務職員は発言を遠慮してしまい、一部の事務職員の発言に偏りがち（頼りがち）な場面も見受けられました。そして、協議会未加入者や研修会の欠席者も徐々に目立ち始めた状況にありました。ワークショップ型研修は、当時の第4ブロックの現状を改

善するために試してみる価値が十分にあると  
考えられ、導入に至りました。

### 3. ワークショップ型研修で使用するもの

#### (1) 付箋 (75 mm×75 mm)

記入の仕方には、特に決まりはありません。  
質問、意見、感想等を自由に記入します。

#### (2) 模造紙

付箋を貼りつけるために使用します。模造  
紙に全員の手が届くように、近い距離で話し  
合いを進めます。

#### (3) タイマー

1回の研修会は2時間～2時間 30分程度  
の時間を設定していますが、話し合いが活発  
になると時間が超過してしまうことが度々あ  
りました。時間を管理するためがあると便利  
です。

### 4. 平成 28 年度ブロック研修会の取り組み

平成 28 年度は「予算増額を目指した要望活  
動」をテーマとして研究を行いました。学校  
配分予算についての交流を通して確認された  
苦慮している点や改善を要する点について、  
八雲町立学校事務職員研修協議会が毎年行っ  
ている町教育委員会との意見交流や、長万部  
町の予算ヒアリングの機会に要望することに  
しました。最終的には、学校配分予算の増額  
を目指し、予算配分基準や予算要求項目の改  
善を進めたいと考えました。

まず、各校の学校配分予算の現状を把握す  
るためにアンケート調査を行いました。アン  
ケート結果から、不足すると回答した学校が  
最も多かった一般消耗品費に焦点を当てて交  
流することから始めました。

#### (1) ワークショップ型研修 1 回目

##### ～一般消耗品費についての交流～

##### ① 事前配布資料

- ・平成 27 年度町経理決算書 (各校)
- ・一般消耗品費出納簿 (各校)

##### ② 交流した内容 (資料 1)

事前アンケートと同様に印刷関係費用と流  
用について意見が集中し、印刷関係の支出に  
苦慮している学校が多いことが改めて確認さ  
れました。燃料費を除く需用費に対し印刷関

係の支出が 50～86%を占めていることや、流  
用が前提になっていること、また私費負担等  
にも話が及びました。

##### ③ 特徴的な付箋

同じ規模でも印刷経費や消耗品の支出に  
差があり人数や規模だけで経費を把握す  
るのは難しいと思った。その年の教員の授  
業の仕方等によっても必要経費が大きく  
変わるんだろうなと思った。

#### (2) ワークショップ型研修 2 回目

##### ～学校配分予算全体についての交流～

##### ① 事前配布資料

- ・平成 27 年度町経理決算書 (前回同様)
- ・八雲町学校配分年間予算一覧表
- ・八雲町学校配分年間予算積算内訳

##### ② 交流した内容 (資料 2)

積算内訳や積算根拠および予算が不足する  
項目、反対に予算が残りやすい項目について  
話し合われました。予算の不足については、  
どのような状態であれば満足といえるのか、  
予算が残りやすい項目については、有効な活  
用方法についてそれぞれ意見を出し合いまし  
た。また、学校配分予算では支出できない筆  
耕料 (役務費) や教職員研修の講師謝金 (報  
償費) についての要望も出されました。

##### ③ 特徴的な付箋

学校規模 (人数) によ  
る配分だけではないの  
で、予算が厳しい学校  
と余ってしまう学校が  
あることが気になりま  
す。

町予算で各校困ってい  
ることは？予算の不足  
にどのように対処して  
いるのか？物を購入し  
ないのか、他の財源が  
あるのか。しわ寄せは  
どこに？

#### (3) ワークショップ型研修 3 回目

##### ～他市町および第 4 ブロック事務職員 未配置校消耗品費についての交流～

##### ① 事前配布資料

- ・渡島管内他市町の小中学校の平成 27 年度  
市町経理決算書、出納簿 (抽出校)
- ・八雲町事務職員未配置校の平成 27 年度町  
経理決算書

## ② 交流した内容（資料3）

これまでの研修会で必ず話題になった印刷関係支出についてはこの回も多くの意見が集まりました。小学校よりも中学校の方が印刷関係支出の割合が高いこと、学級数や児童生徒数に比例しているとは必ずしもいえないこと等がわかりました。そして各市町により現物支給の物品があるため、予算額だけでは単純に比較ができないこともわかりました。事務職員未配置校については予算を残している項目が多く、事務職員配置校との予算の使い方の違いもみられました。

## ③ 特徴的な付箋

八雲町は配分予算外の町教委負担が多い。(実務要覧、トイレトーパー、原材料等)

コピー用紙・マスター・インクは学級数や生徒数に比例しているとは言えない。ペーパーレス導入、定額制プリントサービスな

## 5. ワークショップ型研修4回目

### ～平成28年度渡島支部秋季研究大会～

渡島支部では、年に2回春と秋に研究大会を開催しています。秋の研究大会では第1～第4の各ブロックそれぞれが毎年レポート発表し、分科会を行います。第4ブロックは分科会もワークショップ形式で進めることとしました。参加者は15名ほどのため、くじで2グループに分かれ、それぞれに司会者を置きました。討議の柱は「市町経理（学校配分予算）の現状」と「効果的な予算要望のために」としました。全体での論議と比較して一人ひとりの発言量は圧倒的に多く、概ね好評でした。

## 6. 平成29年度ブロック研修会の取り組み

本来「予算増額を目指した要望活動」の研究の2年目に当たりますが、協議会未加入者の増加や（12名中6名が未加入）、新採用者が2名加入したこと等から、継続して同じテーマの研究を行うことは難しいと判断しました。そして経験年数が短い事務職員の多い第4ブロックでは、日々の業務から生じる疑問を共有し解決する場が重要であると考え、

「日常事務実践交流」を新たなテーマとして研究を行うことにしました。基本的事項や日常業務から生じる疑問を気軽に交流できる場の必要性を感じたためです。

研修会では受け身の参加にならないよう、各自が学校で実際に提案や配布した文書を資料としました。また、研修会の内容と実際に業務を行う時期と連動させることで、研修会で得た情報や知識をすぐに学校で活かすことができる場とするを旨としました。

## (1) ワークショップ型研修5回目

### ～前年度町経理決算報告および予算要望についての交流～

#### ① 事前配布資料

4月に作成・提案した文書

- ・平成28年度町経理決算書
- ・予算要望に係る校内意見集約関係

#### ② 交流した内容（資料4）

新採用の2名からは町経理に関して多数の質問があり、予算を執行する際に留意する点等について交流しました。予算要望に関しては何年も継続して要望しても実現しない場合の工夫や、校内での要望集約方法について話し合いました。

#### ③ 特徴的な付箋

ごみ処理手数料  
ごみ袋の使用量に差がある（ペットボトルのごみはほとんど教職員？）

長年要望しても通らないものがあるので、どのような要望が通ったのか知りたい。

## (2) ワークショップ型研修6回目

### ～校内配分予算提案および備品購入についての交流～

#### ① 事前配布資料

5月に作成・提案した文書

- ・町経理予算提案関係
- ・教材備品購入に係る校内希望集約関係

#### ② 交流した内容（資料5）

予算の提案と備品購入について、A～Dの4段階での自己評価および目標、成果、課題、職員の反応について交流しました。どの学校も教員の関心の低さを感じており、よりよい

提案資料や説明の仕方について話し合いました。

### ③ 特徴的な付箋

予算提案(教職員の反応) とても薄い。 質問もなければ意見もない。納得してるのか、言ってもムダと諦めてるのか ...	予算提案(課題) 短い時間の説明で理解してくれていくかわからない(聞いていない?)
---	--

## (3) ワークショップ型研修7回目 ～日常業務全般についての交流～

### ① 事前配布資料

6月に作成・提案した文書

- ・児童手当現況届関係
- ・旅費配分関係
- ・八雲町閉校校備品所管替関係
- ・教職員向け事務日より、生徒向け掲示他

### ② 交流した内容(資料6)

予算執行状況を定期的に教職員へ知らせている学校や、校内配分予算についても独自に購入要望書を作成している学校の取り組みを知り、自校へ取り入れようとする前向きな姿勢が多くみられました。他校の生の資料を通して反省点に気づき、お互いに助言し合うことができました。

### ③ 特徴的な付箋

教材備品購入。欲しいという要望があまりない。教職員の会話を聞くようにしたり毎年あることなので長期的に集約すればよかった。	B小の「学級経営費購入要望書」が良いと思いました。E中でも学級ごとに予算がありますが、使われずにいるので夏休み明けにやってみます。
--	---

## (4) ワークショップ型研修8回目 ～日常業務全般についての交流～

### ① 事前配布資料

7月に作成・提案した文書

- ・平成30年度教育費予算要望書
- ・教材教具備品購入計画書
- ・予算執行状況関係
- ・教職員向け事務日より他

### ② 交流した内容(資料7)

主に各校が提出した予算要望資料について話し合いました。要望事項の記述内容や継続要望年数の記入等、各校それぞれで工夫が見られました。内容によっては町教育委員会へ修繕申告を行うこともできるという助言や、要望している備品が納品されたら貸出してほしいという願いもありました。互いの資料を公開することによって、それぞれの業務改善へとつなげることができました。

### ③ 特徴的な付箋

体育館窓ガラス 大きさによるかもしれませんが、修繕申告で通常対応してもらえるかも…?	グラウンド、トイレの状態が悪い学校が多いと感じます。改修にも時間、費用が必要な場所。持ち回りで数年～10年毎に修繕があると良い。
---	--

## 7. 全道事務研第5分科会への参加

ワールドカフェを体験することによりワークショップ型研修への理解を深めることができるのではないかと考え、第4ブロック6名のうち5名は第67回北海道公立小中学校事務研究大会胆振大会第5分科会に参加しました。ワールドカフェに実際に参加してみると、アイスブレイクや途中のメンバー入れ替え等普段のブロック研修会とは違った経験をすることができ、相手の意見を尊重する雰囲気的重要性を改めて実感することができました。

## 8. ワークショップ型研修9回目

### ～平成29年度渡島支部秋季研修会～

平成28年度に引き続き、ワークショップ形式の分科会を行いました。「学校内(教職員・児童生徒)のかかわり」と「地域・保護者とかかわり」を討議の柱とし、協議しました。くじで2グループに分かれるところは前年度と同じですが、全道事務研のワールドカフェの経験を取り入れ、途中でメンバーの入れ替えを行いました。司会者が促さなくとも自発的発言により協議が進み、有意義な時間とすることができました。(資料8)

## 9. 成果と課題

2年間行ったワークショップ型研修を通し

て得られた第4ブロックの成果と課題は、以下のとおりです。

## (1) 成果

### ① 主体性が養われる

ワークショップ型研修は発表ではなく話し合いの場であるため、全員が常に参加している意識を持ち合わせています。回数を重ねるごとに付箋の枚数も増加し、意識の高まりを感じました。第4ブロック内では研修に対する意欲の差は感じられず、主体的な話し合いだからこそ満足感が得られるのだと分かりました。そのためには、発言を決して否定しない雰囲気が必要です。的外れな発言ではないかと周囲を気にしたり、発言を渋ったりするような環境にならないよう今後も注意を払う必要があります。

### ② 一体感が生まれる

全員が主体的に参加することによって、ブロックが一体となって研究を進めることができました。月に1、2度しか顔を合わせることができませんが、横のつながりを強固に感じられました。内容がどのような場合でも、事務職員同士の関係性が構築されていなければ研究を上手く進めていくことはできないと思います。横のつながりを大切にすることは、質的改善を目指す上で重要であると再確認しました。ブロックの一体感からオープンな話し合いが展開され、各校の生の取り組みの資料を扱う意義がより高まりました。

## (2) 課題

### ① アイスブレイクの活用

よく知っているメンバー同士でも、話し合いが流れに乗るまでは毎回多少の時間を要します。全道事務研で体験したアイスブレイクを取り入れ、少しでも早く緊張を解きリラックスした雰囲気を作る工夫をしていきたいと考えています。特に初対面の関係が想定される研修の機会は、アイスブレイクを行うことでより活発な話し合いが期待されます。

### ② まとめの深化

これまでの研修会では、付箋のカテゴリ分けをもってまとめとしていました。話し合

いを通して気づいた課題や反省点を各自のものだけで終わらせず、ブロック内で共有し全体の課題を見出す等まとめをないがしろにしないよう意識を変える必要があります。まとめの時間を十分に確保するため、研修会の時間管理をおろそかにしないよう工夫していかなければなりません。

## 10. おわりに

第4ブロックの会員数は減少の一途をたどり、この2、3年の間に半数程度になってしまいました。協議会未加入者は経験も知識も豊富なベテランが多いことから、経験年数の短い事務職員ばかりが集まった第4ブロック研修会を充実したものにしなくては、新採用者も離れてしまうのではないかという危機感を抱いていました。研修会の持ち方は、その年の会員の状況に応じて最も効果的な方法をその都度模索していく必要があります。

全道事務研胆振大会で参加したワールドカフェでは、初対面の事務職員との話し合いでも、経験年数に気後れすることなく各々発言することができました。このことは、ワークショップ型研修で培った主体性が身についている証明だと考えています。主体的に取り組む姿勢は、毎日の学校での仕事にも必ず活かしているはずです。

平成30年度からは森町の事務職員が加わり、人数も増えましたが、今後も切磋琢磨する関係性を大切にしながら、実りある研修会を重ねていきたいです。